

STEREO PREAMPLIFIER

C-270V

プレジジョン・ステレオ・プリアンプ

取扱説明書



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程および結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

お 願 い

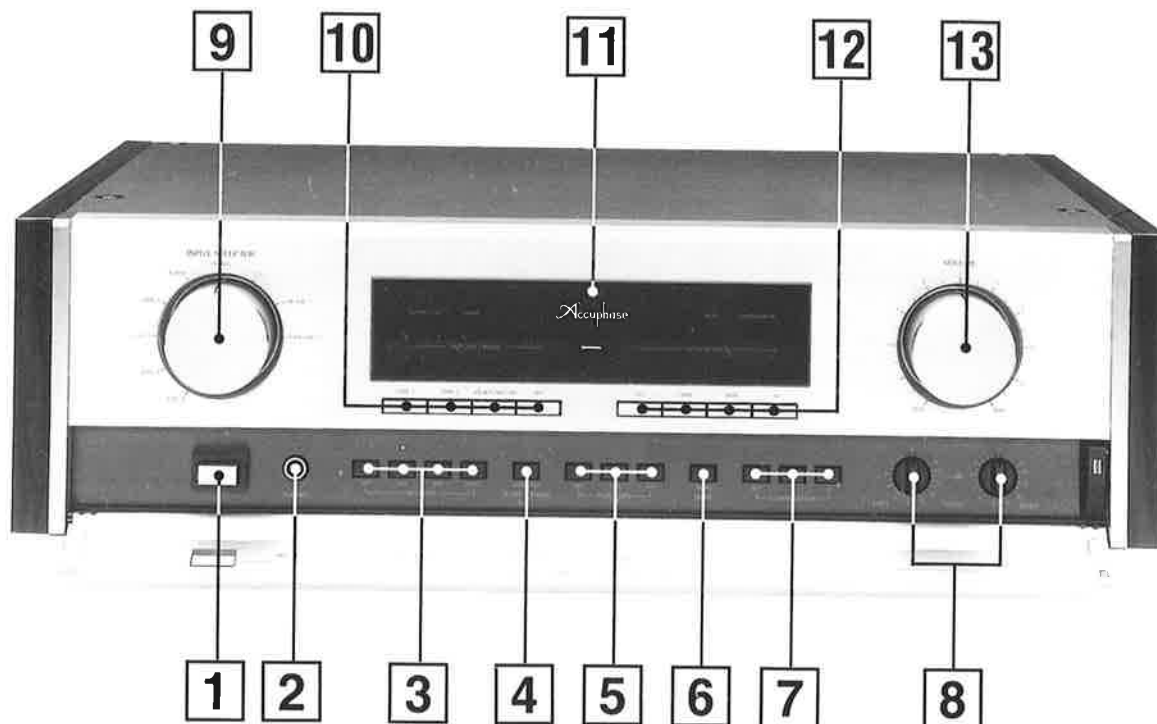
お客様カードを付属していますから、これに必要な事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

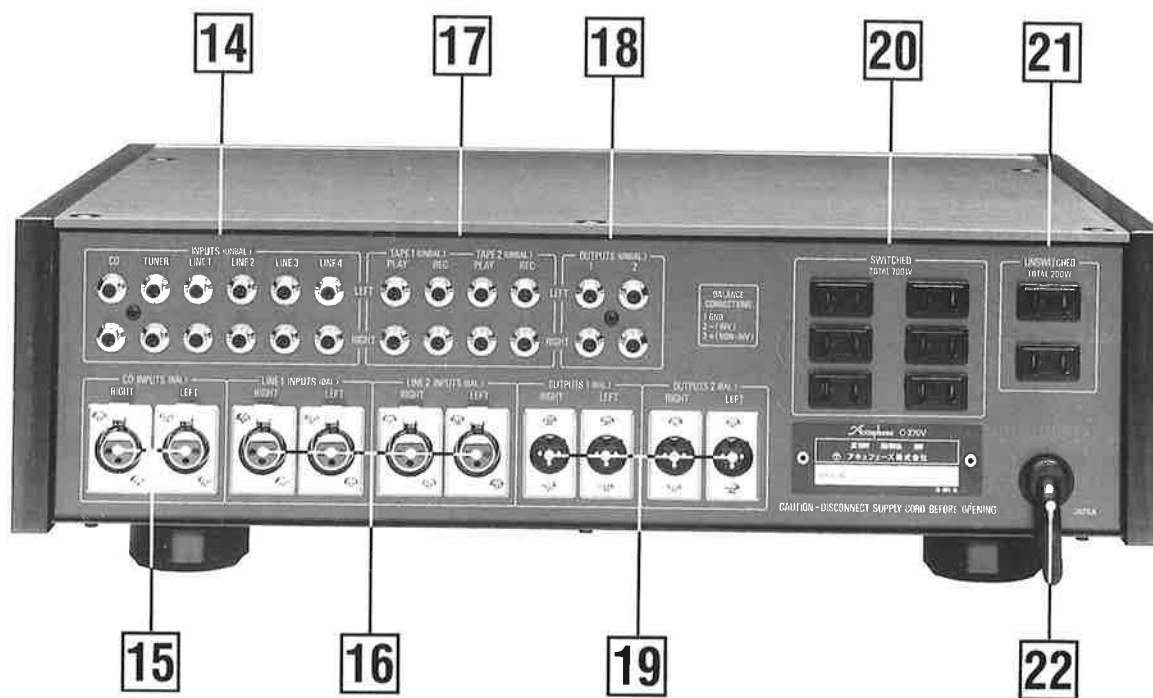
目 次

接続図	2
特長	3
各部の動作説明	4
ご使用方法	8
ご注意	10
保証特性	11
特性グラフ	12
ブロック・ダイアグラム	13

フロントパネル

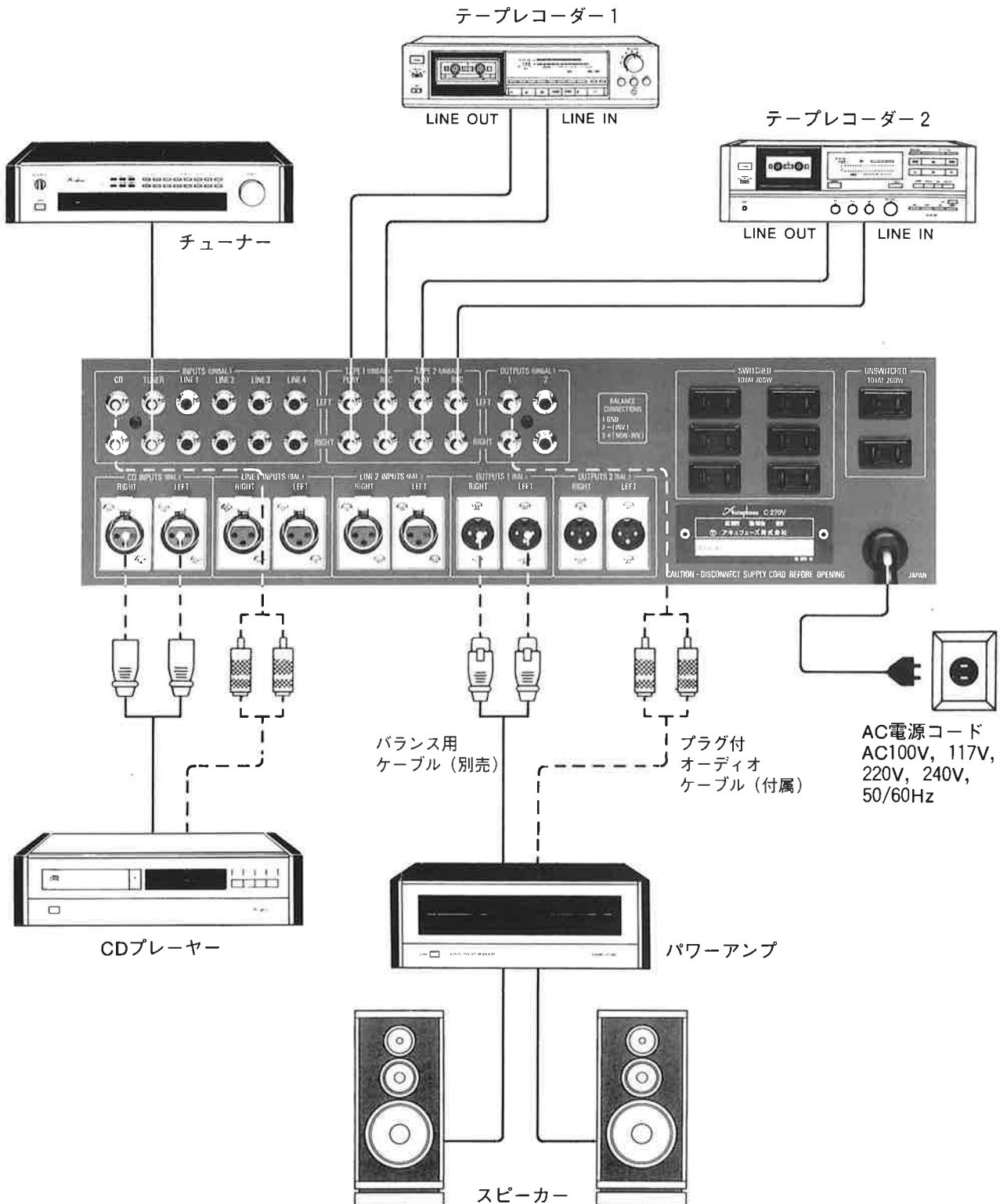


リアパネル



接続図

接続するときは、かならず各機器の電源を切り、
LEFT (左)、RIGHT (右) を正しく接続してください。



特長

■究極のバランス伝送方式ラインアンプ

バランス伝送とは、お互いに位相が反転した対称信号を同時に送る方式で、コモンモードの雑音成分を除去する能力に優れた、理想的な伝送方式です。

本機の平衡用ラインアンプは、バランス伝送の究極を目指し、完璧なバランス出力を構成しています。入力部は、FET入力の差動プッシュプルにより高い同相信号除去比をもち、出力部は各々の出力を相手側にフィードバックするという、対称型の『たすき掛け回路』によるトランス・シュミレーションをした構成で、＋の対称信号を低いインピーダンスで送り出します。

■全増幅段A級プッシュプル構成DCサーボ方式により極限的特性

不平衡出力用ラインアンプと平衡出力用ラインアンプがそれぞれ独立して装備されています。入力部は、オールFETによる定電流負荷カスコード・ブートストラップのソース・フォロアーで、それを高い同相信号除去比をもつ、対称型の平衡差動プッシュプル・エミッタ接地回路で増幅しています。出力部は、やはり対称型のカスコード・プッシュプル＋エミッタ・フォロアー回路で構成されています。

これらのユニットアンプはすべて、入力・出力ともに計測用高精度ICを使用したDCサーボにより高い安定度および高い温度応答特性が得られ、どんな入力に対しても安定した動作が得られます。

■左右独立、2トランスによる完全モノ・コンストラクションの理想電源

トランス、フィルター・コンデンサーとも左右独立し、電氣的に完全にモノラル構成になっています。さらに、全ユニットアンプに広帯域低インピーダンス電源を搭載し、アンプ間の相互干渉を徹底的に防止しています。

■ロジウム・メッキ使用の多入・出力端子

プログラム・ソースの多様化に備え、豊富な入・出力端子を装備しました。入力・出力ジャックは抜き差しが頻度が高く、表面が柔らかい材料では、傷を発生し接触が悪化します。本機では、接触面のメッキとしては金よりも優れた『ロジウム・メッキ』の特製ジャックを使用しました。

■左右の出力を精密にコントロールする独立型レベル・コントロール

チャンネル・バランスを完全にし、任意のリスキング・ポジションで定位をコントロールできる『左右独立アッテネーター式レベル・コントロール』を設けました。抵抗素子は、鏡面仕上げの低ひずみ型です。

■CP抵抗素子使用の4連動音量調整器を採用

音質を決定する『CP抵抗体』は、抵抗素子を印刷後、高温加圧成形されます。そして表面は、鏡面状に仕上げられた低接触抵抗、低ひずみ率の素子です。

抵抗体と接触するブラシは、金メッキ多接点型で、外部端子と一体構造にして金属接触面をなくし、異種金属が接触することによるひずみを低減、回転方式はブラシを固定し、抵抗体が回転するという独創的な構造です。このため内部の接触点は大幅に減少、接点グリースも不要と、理想的な構造を実現しています。直径8mmの極太真鍮シャフトをアルミ切削軸受けで支持、4個の素子をそれぞれ高精度アルミ切削ケースに収納して完全なシールドを施した理想的な連続可変型で、トラッキングエラーは、-60dBの位置で実測0.5dB以内と驚異的精度です。

■高音質・長期安定性に優れたロジック・リレーコントロール信号切替回路。

切り替えのために信号経路を引き回すことは、音質の劣化につながります。本機は、切替が必要なその場所に『リレー』を設置し、これらを『ロジック回路で電的にコントロールする』という、高信頼型切替機構です。さらに『窒素ガス封入の完全密閉構造リレー』を開発、接点は『金および銀パラジウム合金のクロスバー・ツイン方式』で、低接点抵抗、高耐久性の極めて質の高いものです。

■ユニット・アンプをアルミ・ハウジングに収納。これらを8mm厚硬質アルミの強靱な構造部に固定。

本機は、不平衡出力用ラインアンプおよび2ユニットに分離された平衡出力用ラインアンプの左右合計6ユニットで構成されています。それぞれに左右独立した電源部と各ユニット・アンプは強力なローカル・エリア電源とペアーになって、厚手のアルミ・ハウジングに収められ、大型マザープリントボードの上に止められています。これらが電氣的・機械的に相互干渉しないように8mm厚のアルミ材による強固なシャーシで固定されていますので、振動などによる共振を防止し、ほぼ完全な構造になっています。

■音質劣化がない位相切替機構

装置全体の位相を反転させる『フェーズ・スイッチ』を設けました。切替方法は、バランス・アンプの＋を入れ替えるだけで、位相反転器のような負荷回路がなく、音質の劣化がありません。

各部の動作説明

1 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3.5秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。電源を入れると同時に“Accuphase”の文字が点灯し、ミュート解除とともにディスプレイ部中央の“—”が赤く点灯します。

2 PHONES — ヘッドフォン出力ジャック

ステレオ・ヘッドフォンで聴くときに、この出力ジャックにヘッドフォンのプラグを差し込んでください。インピーダンス4~600Ωのヘッドフォンをご使用ください。プラグを差し込んでも本機の4系統の出力信号は切れません。したがって、ヘッドフォンだけで聴くときは、③ OUTPUTS切替スイッチで出力をOFFにするか、パワーアンプのレベルを下げてください。

3 OUTPUTS — 出力切替スイッチ

OFF：4系統の出力信号がすべて切れます。

ALL：すべてのOUTPUTS端子から出力されます。

BAL：リアパネルの⑩OUTPUTS端子（バランス）を選択します。

UNBAL：リアパネルの⑪OUTPUTS端子（ピンジャック）を選択します。

- 通常は、このスイッチを“ALL”のポジションにしてご使用ください。使用していない出力端子の信号は切らなくても差し支えありません。
- ヘッドフォン・ジャックへは、このスイッチに関係なく常時出力されています。

4 OUTPUT PHASE — 出力位相切替スイッチ

出力の位相を切り替えるスイッチです。通常、出力信号は入力信号と同相ですが、このスイッチを押すとLEDが点灯し、出力の位相が反転します。つまり、出力信号は入力信号と逆相になります。バランス出力も同時に変わり、⑫出力コネクター・ピン接続は、

①：グラウンド

②：インバート（-） → ノン・インバート（+）

③：ノン・イン・バート（+） → インバート（-）

となります。

5 TAPE COPY — テープコピー・スイッチ

テープレコーダーを2台使って、テープのコピーをするときにこのスイッチを使います。

1→2、2→1

リアパネル⑬のTAPE-1に接続したテープレコーダーをマスターにして、TAPE-2のテープレコーダーでコピーする場合は“1→2”ポジションにします。逆の場合は“2→1”にします。

OFF

コピーしない場合には、このポジションにします。

6 MODE — モード切替スイッチ

ステレオとモノフォニックの切替スイッチで、押してLEDが点灯し、“MONO”つまりモノフォニックになります。この時は、左右チャンネルの信号がミックスされますので、両方のスピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。再びスイッチを押してLED消灯で通常のステレオ再生状態です。

注意

録音をするとき“MONO”の状態（LED点灯）では、レコーディング出力もモノフォニックになりますので、注意してください。

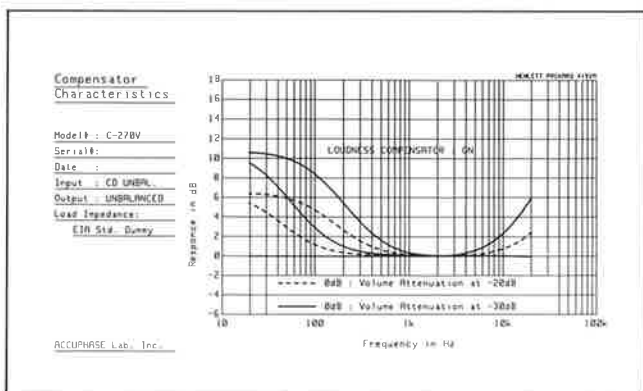
7 COMPENSATOR — コンペンセーター(聴感補正)スイッチ

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整するスイッチです。人間の聴感特性はボリュームを下げたときには、そのときの音量によって低音感や高音感が不足してきます。この量感を補うために、このスイッチが大変有効です。

“1”：低音だけを100Hzで+3dB増強

“2”：100Hzを+8dB、高音域の20kHzを+6dB増強

この増強する量はボリュームを-30dBまでしぼったときの値で、音量を上げれば順次、自動的に増強量は減少します。それぞれのスイッチは押して“ON”でLEDが点灯します。



8 LEVEL — レベル調整ツマミ

出力レベルを左右チャンネル独立して調整することができます。ステレオ再生時の左右音量バランス調整やシステム全体のレベルバランスを整えるときに有効です。

通常は、最大“0”で使用します。

- 0～-6dB：0.5dBステップ
- -6dB～-14dB：1dBステップ
- -∞：入力OFF

9 INPUT SELECTOR — 入力セレクター

リアパネルの各入力端子に対応するポジションのプログラム・ソースを選択します。

CD、TUNER、LINE-1～LINE-4

一般的なアンバランス方式で、リアパネル⑭の各入力端子へ接続した機器を選択します。

CD-BAL、LINE-BAL 1, 2

リアパネル⑮および⑯へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

10 TAPE RECORDER — テープモニター、録音出力ON/OFFスイッチ

OFF

通常（テープレコーダーを使用しない場合）は、このポジションにします。⑨の入力セレクターで選択するプログラムソースを演奏します。ただし、リアパネル⑰のテープレコーダー接続端子の“REC”端子には信号は出力されません。

SOURCE/REC ON

テープレコーダーを使用して録音する場合にはこのポジションにします。入力セレクターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、リアパネルのテープレコーダー接続端子の“REC”端子に信号が出力され、録音が可能になります。

TAPE-1, 2

テープ再生をするときには、リアパネルの“TAPE-1”および“TAPE-2”へ接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択してお聴きください。録音時にこのポジションに切り替えますと、そのとき録音している状況をモニターすることができます（3ヘッド・テープレコーダーの場合）。

11 ディスプレイ部

各スイッチの動作ポジションなどを、LEDの点灯により表示します。

出力表示LED

出力ONの場合には中央部の“—”が赤く点灯します。電源ON時、ミューティング回路が動作している間やATTENUATORスイッチが“ $-\infty$ ”ポジションにあり、出力OFFの場合には消灯します。

OUTPUT OFF

③OUTPUTSスイッチが“OFF”のとき、点灯します。

TAPE RECORDER

下のTAPE RECORDERスイッチに連動して点灯します。

PHASE

④OUTPUT PHASEスイッチにより出力の位相が反転した場合に点灯します。

MONO

⑥MODEスイッチで“MONO”の場合に点灯します。

COMPENSATOR

⑦COMPENSATORスイッチでON状態の時点灯します。

ATTENUATOR

下のATTENUATORスイッチに連動して点灯します。

12 ATTENUATOR — アッテネーター

本機の出レベルを標準状態から瞬時に減衰させることができます。減衰レベルは -20dB 、 -30dB で、“ $-\infty$ ”ポジションでは、出力はOFFになります。

ボリュームを一定のレベルにしておいて、比較試聴するときなどの頭出しに便利です。また、瞬時に音量を下げたいときにも大変便利です。

13 VOLUME — ボリューム調整

右へ回すと音量が増大します。プログラム・ソースを切り替えたり、電源を切るときなどはボリュームを下げることを習慣づけましょう。

14 CD、TUNER、LINE-1～LINE-4 — ハイレベル入力端子

この入力端子は入力インピーダンス $20\text{k}\Omega$ のアンバランス方式、つまり一般的なハイレベル入力の端子です。この入力端子はすべて同じ働きをします。

15 CD INPUTS (BAL.) — バランス入力時のCD入力コネクター

伝送途中の外來雑音によって誘発された不要ノイズをキャンセルし、音質の劣化を防止するバランス伝送は、放送局や業務用機器の信号授受に広く使われている方式です。

このXLRコネクターは、入力インピーダンスが $40\text{k}\Omega$ のバランス型になっています。CDプレーヤーに限ることなく、チューナーなどのバランス出力をもつ機器を接続してください。ピン接続は、

- ①：グランド
- ②：インバート（-）
- ③：ノン・インバート（+）

となっており、このコネクターはXLR-3-31相当品で、接続する適合コネクターはXLR-3-12C相当品です。アクセサリーでは、バランス用XLRコネクター付ケーブルを別売しています。

16 LINE 1, 2 INPUTS (BAL.) — バランス入力時のライン入力コネクター

CDのバランス入力コネクターと同じように、バランス出力をもつ機器を接続することができます。

17 TAPE-1/TAPE-2 — テープレコーダー再生/録音端子

TAPE-1、TAPE-2それぞれにテープレコーダーを接続することができます。次のように接続してください。

“PLAY”端子とテープレコーダーの“LINE OUT”

“REC”端子とテープレコーダーの“LINE IN”

REC端子の出力信号は、本機のボリュームやコンペンセーターなどの影響を受けませんが、⑥MODEスイッチが“MONO”になっているときは、この出力もモノフォニック状態になります。録音時にはご注意ください。

18 OUTPUTS (UNBAL.) — 出力端子 (アンバランス)

2系統の出力は、出力インピーダンスが1Ωで、一般の機器と同じアンバランス接続になっています。

通常は、この内の1系統を使って出力を取り出し、パワーアンプへ接続します。

19 OUTPUTS 1, 2 (BAL.) — バランス出力コネクター

このXLRコネクターは、出力インピーダンス50Ωのバランス接続になっています。入力インピーダンス600Ω以上のパワーアンプ、その他の機器を接続することができます。ピン接続は、

- ①：グランド
- ②：インバート (-)
- ③：ノン・インバート (+)

となっており、このコネクターはXLR-3-32相当品、適合するコネクターは、XLR-3-11C相当品です。

20 SWITCHED — 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。接続する機器の消費電力の合計が700Wを超えないようご注意ください。

21 UNSWITCHED — 電源スイッチに連動しないACコンセント

本機の電源コードを室内のコンセントへ接続すると、電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器へ電源を供給することができます。消費電力が200Wを超えないように注意してください。

22 AC電源コード

■AC電源の極性について

室内のコンセントは大地に対して極性をもっています。アンプのACプラグにもこのような極性があり、室内のコンセントとアンプの極性を合わせた方が、音質上良い結果が得られる場合があります。

C-270Vは、電源コードプラグの片側に“W”の刻印が打たれています。このW側が接地側『W極』になっていますので、室内コンセントの極性がわかっている場合は、互いに合うように接続してください。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。



“W” マークを接地側にする。

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側（穴が右に比べて大きい）が『W極』ですが、不明のときはチェッカーで確認する必要があります。

本機のSWITCHED/UNSWITCHEDコンセントも向かって左側が『W極』です。

■AC電源電圧の変更とヒューズについて

本機は、使用できる電源電圧を内部で100V、117V、220V、および240Vの4段階に切り替えられます。また、電源1次側のヒューズは底板側、電源トランスの横についていますが、電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、必ず弊社品質保証課、またはお求めの専門店へご連絡くださいますよう、お願いいたします。

ご使用方法

■使用される前に

POWERスイッチは、各機器にLEFT（左）/RIGHT（右）とも、正しく接続されるまで入れないでください。

ツマミの位置を確認します。

- VOLUME：下げた（左にまわしきった）状態
- OUTPUTS：ALL
- OUTPUT PHASE：OFF
- TAPE COPY：OFF
- TAPE RECORDER：OFF
- MODE：LED消灯（STEREO）
- LEVEL：0 ポジション
- COMPENSATOR、ATTENUATOR：OFF（LED消灯）

CD（コンパクト・ディスク）をお楽しみになる場合

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネル⑭のCD入力端子（またはTUNER、LINE端子）へ接続してください。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、⑮のバランス用“CD INPUTS”端子をご使用ください。

接続終了後は、次の手順で操作してください。

- ① VOLUMEが下がっていることを確認し、本機とともにCDプレーヤーやパワーアンプの電源を“ON”にしてください。
- ② フロントパネルの⑨入力セクターでCDポジション（または入力したポジション）を選択してください。
- ③ CDプレーヤーを演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください。
- ④ MODEスイッチをモノフォニック状態にし、音像が中央に定位することを確認したり、コンペンセーターなどの効き具合をお試しください。

チューナーで放送を聴く場合

チューナーの出力ケーブルをリアパネル⑭のTUNER入力端子（またはCD、LINE端子）へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、⑯のバランス用“LINE INPUTS”端子をご使用ください。

CD再生と同じ要領で入力セクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

テープレコーダーで録音・再生をする場合

リアパネル⑰TAPE-1（またはTAPE-2）のREC端子とテープレコーダーのLINE IN端子、PLAY端子とテープレコーダーのLINE OUT端子が、左右チャンネルそれぞれ正しく接続されていることを確認してください。

【再生：プレイバック】

TAPE RECORDERスイッチでTAPE-1（またはTAPE-2）に合わせ、テープレコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

テープレコーダーを再生だけに使用する場合は、⑱の各入力端子を使うことができます。

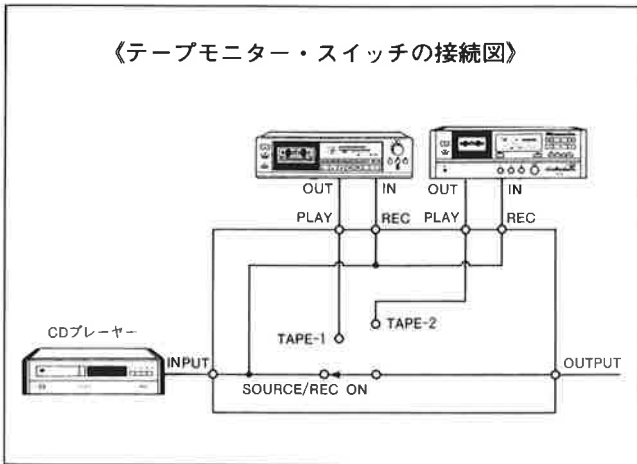
【録音：レコーディング】

レコーディングをする場合は、次の手順で操作してください。

- ① 録音するプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認してください。
- ② TAPE RECORDERスイッチをSOURCE/REC ONポジションにします。テープレコーダーへの信号がREC端子から出力されます。
- ③ テープレコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ④ 本機のボリュームやコンペンセーターなどは、録音される音には関係しませんので、音量を下げ静かに録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。なお、モード・スイッチがモノフォニック状態になっていると、録音出力もモノになってしまいますから注意してください。

- ⑤ TAPE RECORDERスイッチをTAPE-1（またはTAPE-2）へ切り替えると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。（3ヘッド・テープレコーダーの場合）。
- ⑥ TAPE1, 2の各REC端子には同じ信号が出力されますので、2台のテープレコーダーで同時録音も可能です。

《テープモニター・スイッチの接続図》



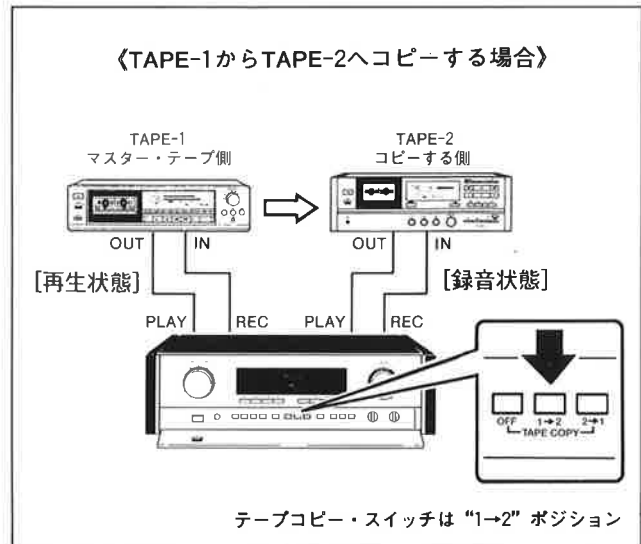
【テープコピー】

本機にはTAPE COPYスイッチがついていますので、他のプログラム・ソースを聴きながら、まったく独立してテープレコーダー相互間でコピーすることが可能です。ただし、電源OFFの間にはできません。

操作は次の手順で行ってください。

- ① TAPE-1側をマスターとしてTAPE-2へコピーする場合は、⑤テープコピー・スイッチを“1→2”ポジションにします。逆の場合は“2→1”にしてください。
- ② マスター側のテープレコーダーを再生状態、コピー側のレコーダーを録音状態にすればコピーができます。
- ③ “1→2”でコピーをしている場合は、TAPE RECORDERスイッチを“TAPE-1”にするとマスター・テープの音が、“TAPE-2”にするとコピーされたテープの音が聴けます。“2→1”のときは逆になります。

《TAPE-1からTAPE-2へコピーする場合》



【電源OFF時のチューナー録音】

本機はロジック・リレーコントロール回路を使用しています。これにより電源OFFの場合には、入力セクターやTAPE COPYスイッチなどの位置に関係なく、バックパネルのTUNER端子に接続されている信号が、TAPEのREC端子に出力されます。したがって、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

ご注意

■アナログ・ディスク・プレーヤーを接続してレコードを聴くことはできません。

本機は、フォノイコライザー・アンプを内蔵していませんので、直接アナログ・ディスク・プレーヤーを接続してレコードを聴くことはできません。レコードをお聴きの場合には、市販のフォノイコライザー・アンプを併用してください。

■設置上の注意

パワーアンプなど、熱の発生する機器と直接重ねて使用することは避けてください。また、直射日光の当たるところや暖房器具の近くへの設置も避けるようにしてください。

■入力ケーブルを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行ってください。

RCAタイプのピンプラグ（通常のオーディオ機器に使用されているもの）を端子から抜き差しするときは、プラス側、マイナス側ともに同時に入ったり切れたりせず、プラス側が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬マイナス側が浮いた状態になって大きなショックノイズを発生し、スピーカーを破損する原因になります。

各機器間の入出力ケーブルを抜き差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行ってください。

■パーシモン・サイドボードについて

サイドボードは、パーシモンの美しい木目を活かした外観で仕上げられています。ボードの汚れを取るときは、硬くしぼった柔らかい布で丁寧に水拭きをしてください。

木工製品用の各種ワックスが市販されていますが、使用後に悪い結果を招くことがありますのでご注意ください。

■その他

- 電源コードは無理に曲げたり、重い物を乗せたりしないでください。電源コードを抜くときは、必ずプラグを持ってください。
- トッププレートや底板は絶対にはずさないでください。内部に手などで触れますと感電事故や故障の原因となり、大変危険です。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

周波数特性

BALANCED INPUT: [CD/LINE]

1.0~300,000Hz +0 -3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

UNBALANCED INPUT: [CD/TUNER/LINE/TAPE PLAY]

1.0~300,000Hz +0 -3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

全高調波ひずみ率

0.005%以下 (すべての入力端子にて)

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V 出力時	
BALANCED	252mV	63mV	40k Ω
UNBALANCED	252mV	63mV	20k Ω

定格出力・出力インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 2.0V 50 Ω XLRタイプ・コネクター

UNBALANCED OUTPUT : 2.0V 1 Ω RCAフォノジャック

TAPE REC : 252mV100 Ω RCAフォノジャック

ヘッドフォン端子

適合インピーダンス 4~600 Ω

S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショート IHF-A補正		EIA S/N
	定格出力時 S/N	入力換算雑音	
BALANCED	110dB	-122dBV	94dB
UNBALANCED	110dB	-122dBV	94dB

最大出力レベル (ひずみ率 0.005% 20~20,000Hz)

BALANCED OUTPUT : 7.0V XLRタイプ・コネクター

UNBALANCED OUTPUT : 7.0V RCAフォノジャック

TAPE REC : 7.0V RCAフォノジャック

最小負荷インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 600 Ω

UNBALANCED OUTPUT : 1k Ω

TAPE REC : 10k Ω

ゲイン

BALANCED INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB

BALANCED INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 18dB

BALANCED INPUT → REC OUTPUT : 0dB

UNBALANCED INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB

UNBALANCED INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 18dB

UNBALANCED INPUT → REC OUTPUT : 0dB

ラウドネス・コンペンセーター (音量調整 -30dB)

1 : +3dB (100Hz)

2 : +8dB (100Hz)、+6dB (20kHz)

アッテネーター

-20dB、-30dB、 $-\infty$

使用半導体

74 Tr 36 FET 25 IC 97 Di

電源および消費電力

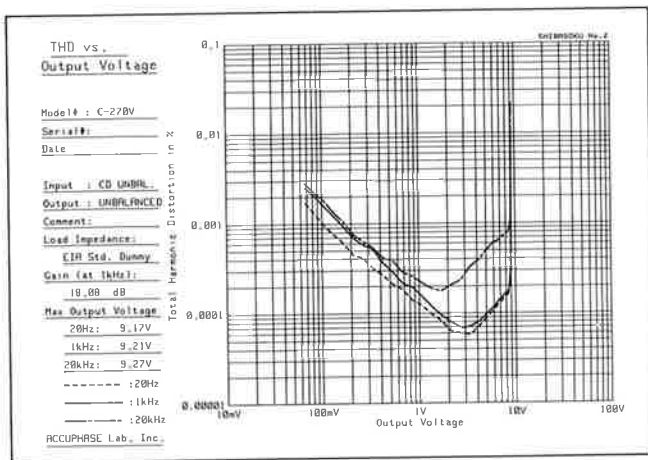
100V、117V、220V、240V 50/60Hz 18W

寸法・重量

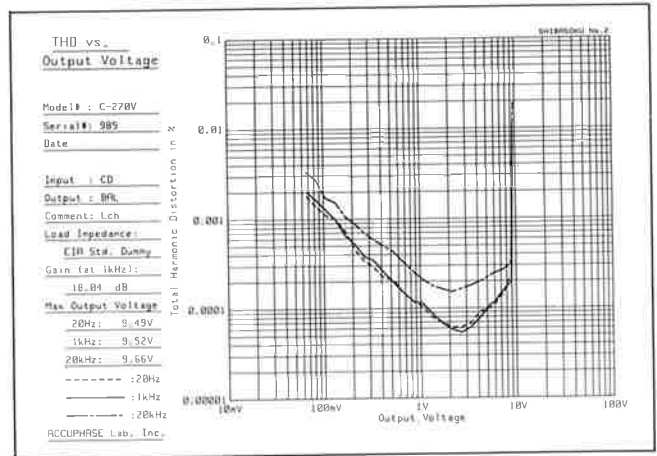
幅475mm×高さ149mm (脚含む) ×奥行375mm

22.0kg

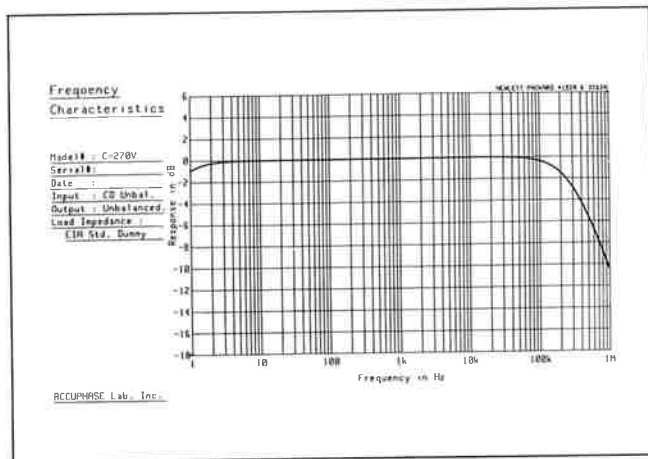
特性グラフ



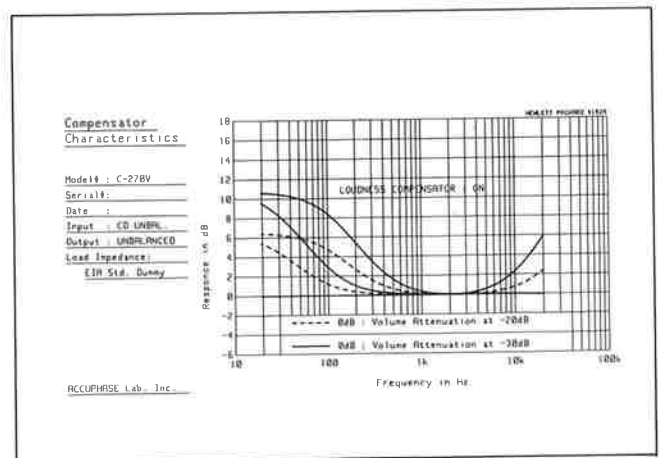
出力電圧／全高調波ひずみ率（入力：CD不平衡／出力：不平衡端子）



出力電圧／全高調波ひずみ率（入力：CD平衡／出力：平衡端子）

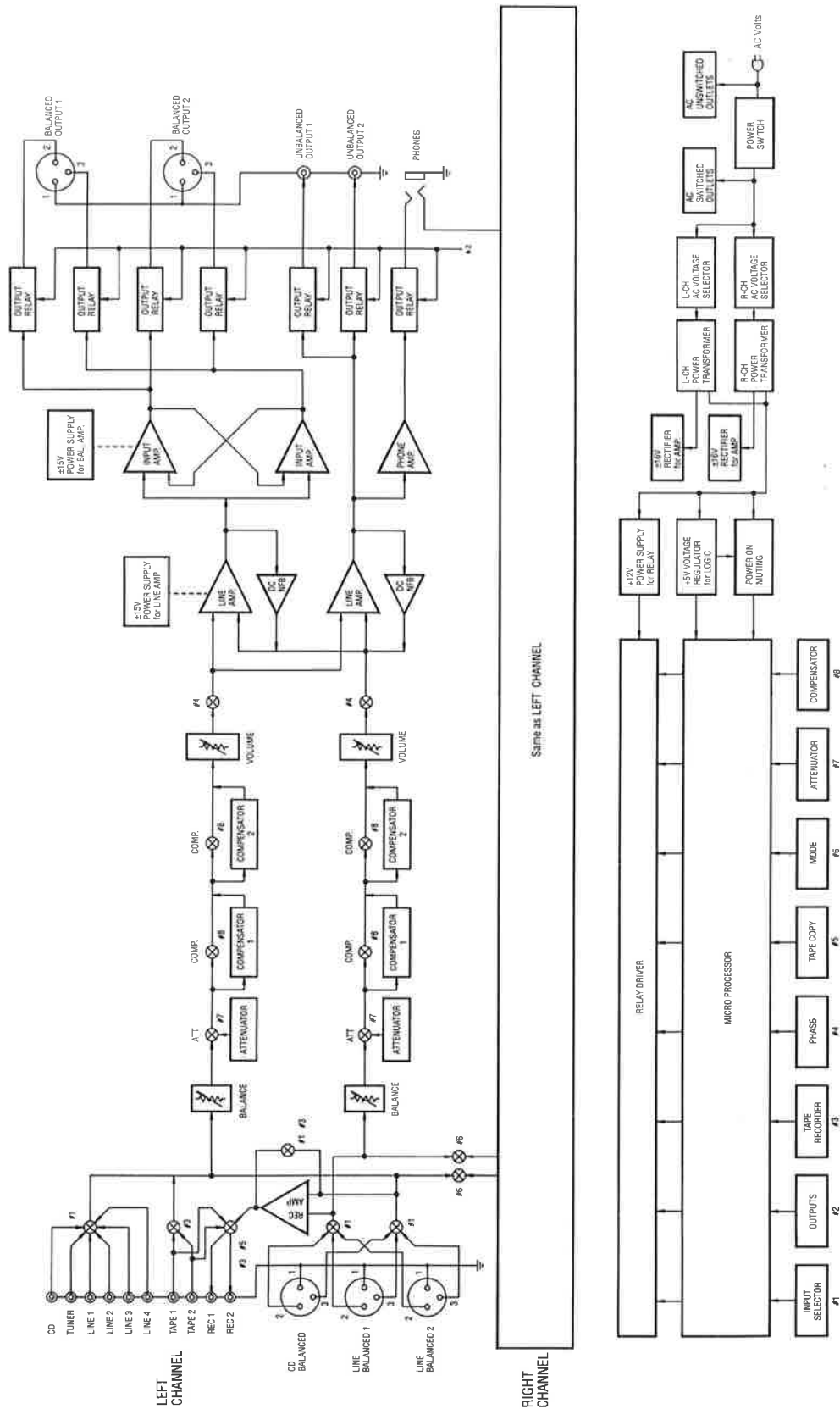


周波数特性



コンペンセーター特性

ブロック・ダイアグラム





ACCUPHASE LABORATORY INC.
アキュフェーズ株式会社
横浜市緑区新石川2-14-10
〒225 TEL(045)901-2771(代表)